

財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
設立 30 周年記念展覧会

天平浪漫紀行・京都

会場：向日市文化資料館

期間：平成 22 年 8 月 14 日（土）～9 月 20 日（月・祝）



主催
協賛

京都府教育委員会・(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
向日市文化資料館

展覧会開催にあたって

財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターは、昭和 56（1981）年に設立されました。以来、京都府内において数々の発掘調査を実施してきましたが、平成 22（2010）年に設立 30 周年を迎えることとなりました。今回は、設立 30 周年を記念し、「天平浪漫紀行・京都」と題して、これまでの調査成果をもとに、京都の奈良時代に焦点をあてて展示いたします。

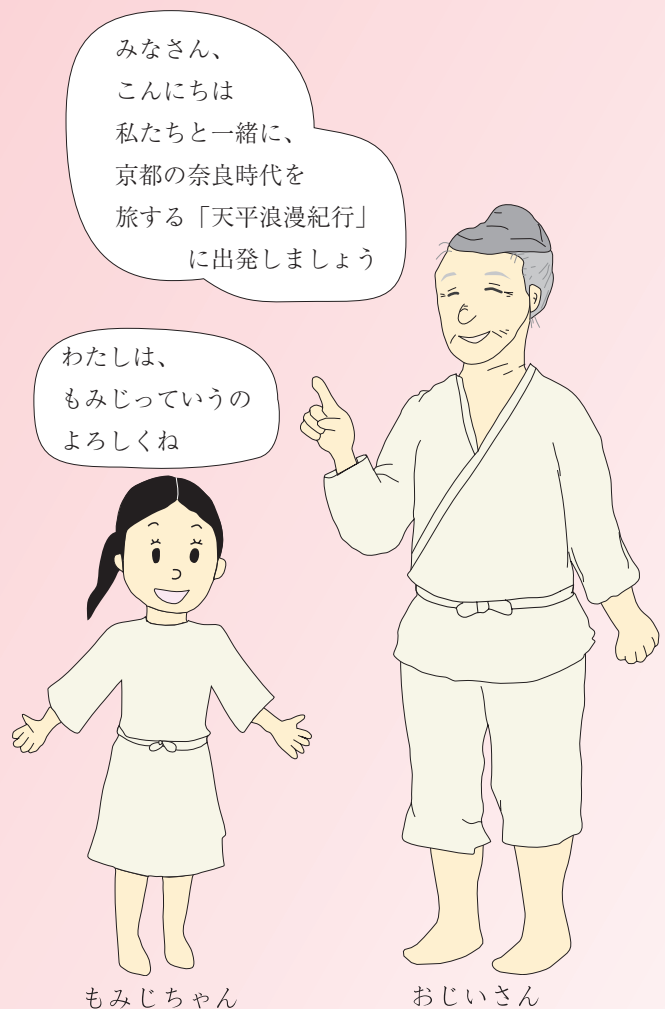
発掘調査の成果を出土遺物やパネルなどにより紹介する、この展覧会が、埋蔵文化財への理解を深めていただく機会になればと思っております。また、埋蔵文化財をより身近な存在として感じていただけたらと思っております。

今回の展覧会に共催いただいた京都府教育委員会をはじめ、協賛をいただいた向日市文化資料館、いろいろとご協力を賜りました各関係機関に深くお礼を申し上げます。

2010 年 8 月

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

理事長 上 田 正 昭



「天平浪漫紀行」の案内役を勤めてくれるもみじちゃんと、そのおじいさんです。

凡 例

1. 本図録は、平成 22 年 8 月 14 日～9 月 20 日まで、向日市文化資料館で開催する（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター設立 30 周年記念展覧会「天平浪漫紀行・京都」の展示図録である。
2. 特別展は、京都府教育委員会と共催で実施し、向日市文化資料館の協賛を受けた。
3. 本図録に掲載した資料は展示品のすべてではない。また、展示の都合により員数等が異なる場合がある。
4. 展覧会期間中の 9 月 4 日（土）に設立 30 周年記念特別講演会を開催する。
5. 本展覧会にかかる資料調査、図録作成、展示資料及び写真等の借用にあたっては次の機関から御指導・御協力を受けた。

（順不同・敬称略） 京丹後市教育委員会・宮津市教育委員会・舞鶴市教育委員会・福知山市教育委員会・綾部市教育委員会・亀岡市教育委員会・城陽市教育委員会・木津川市教育委員会・井手町教育委員会・府立丹後郷土資料館・府立山城郷土資料館

6. 本図録の掲載写真は、当調査研究センター撮影のもののほかは、上記の各教育委員会及び各機関所蔵のものである。

表紙について：表紙は馬場南遺跡・釜ヶ谷遺跡・梅谷瓦窯跡出土の遺物を元にデザインしました。

泉津とその周辺

◆平城京の玄関口 泉津

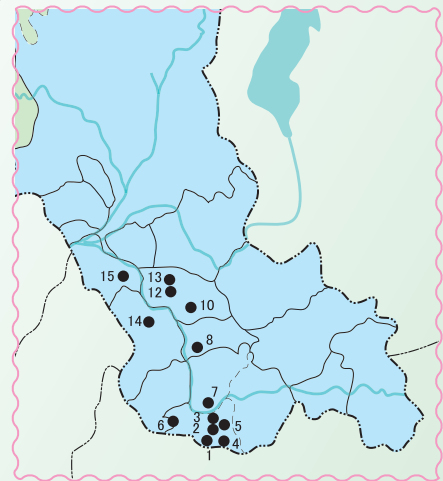
こうづ
上津遺跡は、平城京の北の玄関口である泉津と推定されています。掘立柱建物跡やたくさんの土器が見つかりました。



泉津と推定される上津遺跡（木津川市）
（木津川市教育委員会提供）



泉津には、
各地から平城京
に運ばれる物資が
集まったんだよ



3～7頁で旅した遺跡

◆謎の寺院 神雄寺



馬場南遺跡の全景（木津川市）

ばばみなみ
馬場南遺跡は、平城京と泉津の中間地点にあります。礎石建ちの建物跡（本堂）や掘立柱建物跡（礼堂）などが見つかりました。また、川跡からたくさんの灯明皿が見つかりました。

馬場南遺跡は「かみおでら・じんゆうじ神雄寺」という寺院であったと考えられていますが、この灯明皿は寺院で行われた法要に使われたものと思われます。



本堂跡と見られる基壇（木津川市教育委員会提供）



川跡から出土した灯明皿

平城京をめぐる遺

阿
支
波
支
乃
之
多
波
毛
美
智



万葉歌木簡



「神雄寺」墨書土器

馬場南遺跡では、^{まんようたもつかん}万葉歌木簡・^{さいゆうさんすいとうき}彩釉山水陶器・^{さんさいとうき}三彩陶器など、多種多様な遺物が出土しました。

また「神雄寺」と墨書された土器が多数出土し、馬場南遺跡が「神雄寺」と呼ばれていたこともわかりました。

焼失した本堂跡からは四天王の^そ塑像^{ぞう}が出土しています。



彩釉山水陶器



三彩陶器



焼けた塑像（木津川市教育委員会提供）

◆平城宮の瓦を焼いた^{かわらがま}瓦窯跡群

平城京の北方に広がる奈良山丘陵では、瓦を焼くためのたくさんの瓦窯が営まれました。



興福寺の瓦を焼いた梅谷瓦窯跡（木津川市）



興福寺創建時の軒丸瓦と軒平瓦
（木津川市梅谷瓦窯跡）

秋萩の下葉もみちぬ あらたまの月の経ゆけば風をいたみかも
（読み人知らず）万葉集卷十 二二〇五

説明：馬場南遺跡出土万葉歌木簡の全容

跡 ～ 泉 津 と そ の 周 辺 ～

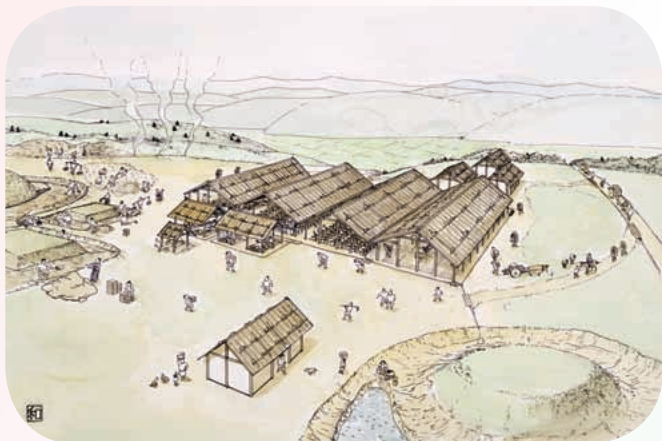
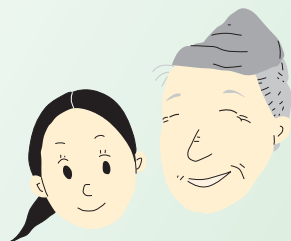
しょうにんがひら
上人ヶ平遺跡は平城宮などの建物に葺く瓦を製作した工房跡です。体育館ほどの広さの作業場が見つかっています。

また、隣接する市坂瓦窯跡^{いちさか}でこれらの瓦を焼いたことがわかっています。



平城宮の瓦を生産した工房跡
(木津川市上人ヶ平遺跡・市坂瓦窯跡)

上人ヶ平遺跡は、
史跡公園として
整備されているんだよ
みんなも行って
みてね



上人ヶ平遺跡における瓦作りのようす
(想像復原図 早川和子作画)

◆まつりの場

奈良時代になると、厄^{やく}よけやまじないのための土器が作られました。釜ヶ谷遺跡^{かまがたに}では土器に人の顔を描いたもの（墨書人面土器^{ぼくしょじんめんどき}）や馬をかたどった土製品（土馬^{どば}）などが出土しました。

また、木製や銅製の薄い板で、人形^{ひとがた}や馬形^{うまがた}、あるいは斎串^{いぐし}と呼ばれる祭祀具も作られました。



厄よけに使われた土器（木津川市釜ヶ谷遺跡）

◆離宮の跡か、寺院跡か

樋ノ口遺跡^{ひのくち}では、敷地を囲った土塀や建物跡とともに、三彩陶器や平城宮と同じ型式の瓦などが出土しました。天皇の別荘である離宮跡もしくは寺院跡ではないかと考えられています。



樋ノ口遺跡で出土した三彩小壺



寺院跡か、離宮跡か（木津川市・精華町樋ノ口遺跡）

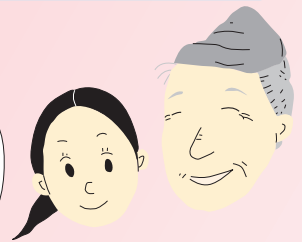
聖武天皇のみやこ

～恭仁宮と井手寺～

◆恭仁の宮

聖武天皇は、天平12(740)年、都を平城京から恭仁宮に遷します。さらに紫香樂宮、難波宮と都を遷していきますが、天平17(745)年、都を平城京に戻しました。

3年あまりの
都だったんだけど
建物跡や多くの土器、
瓦などが見つ
かったんだ



恭仁宮を上空から見る(木津川市加茂町恭仁宮跡)
(木津川市教育委員会提供)



宮東面南門跡(木津川市加茂町恭仁宮跡)

◆井手寺と橘諸兄

恭仁宮の造営に大きな影響力を及ぼしたのが橘諸兄です。恭仁宮から北西へ5kmのところにある井手町には橘氏の氏寺と言われる井手寺があり、200m四方の大きなお寺があったことがわかってきています



井手寺の範囲(推定)

井手寺上空から奈良山丘陵を眺める(井手町井手寺跡)

推定金堂跡付近から、色鮮やかな垂木先瓦が出土しています。



井手寺出土の三彩垂木先瓦

今造る久迹の都は山川のさやけき見ればうべ知らすらし
(大伴家持) 万葉集卷六 一口三七
説明: 大伴家持が、恭仁宮が造営された場所を褒め讃えた歌

木津川をめぐる ～役所と官道～

◆久世郡の遺跡

井手寺の北方にある久世郡では、多くの寺院が造られました。その一つ、久世廃寺では、金銅製の誕生釈迦仏立像が出土しました。平川廃寺でも高さ 1.8 m にも復原される粘土製の仏像（塑像）の破片が見つっています

また、古代の官道とともに大規模な建物跡が見つかった芝山遺跡は古代の役所（駅家か）の可能性も考えられています。

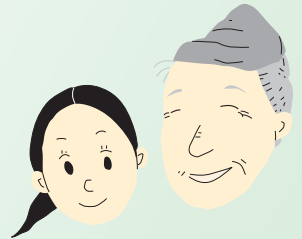


金銅製誕生釈迦仏立像（城陽市久世廃寺、城陽市教育委員会提供）



大規模な掘立柱建物跡（城陽市芝山遺跡）

久世廃寺の金銅
仏立像は高さが
たったの 11cm しか
ない小さいもの
なんだ



◆つづき 綴喜郡の遺跡



奈良時代の建物跡（京田辺市新遺跡）



奈良時代の山陰道の跡か（八幡市内里八丁遺跡）

木津川の西岸にある新遺跡でも、奈良時代の建物跡や大きな円面硯が見つっています。

また、古代の幹線道路である山陰道の跡と推定される溝が内里八丁遺跡で見つっています。ここでは奈良時代の貨幣である和同開珎が出土しています。



円面硯（京田辺市新遺跡）



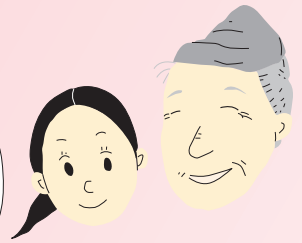
和同開珎
（八幡市内里八丁遺跡）

乙訓をよこぎって

◆「園」の遺跡と大土木工事

長岡京の下層で見つかった更ノ町遺跡^{ふけのまち}では掘立柱建物跡や井戸などとともに多数の木簡や墨書土器が出土しました。これら文字資料の分析から「園」^{その}（朝廷に税を納めるための特別地域）を管理した役所が存在したと考えられています。

更ノ町遺跡では、「園司」と書かれた墨書土器が出土して、奈良時代の役所であることがわかったんだ



更ノ町遺跡の掘立柱建物跡（長岡京市）



更ノ町遺跡の井戸跡（長岡京市）



「園」「園司」などの墨書土器（長岡京市更ノ町遺跡）

上里遺跡^{かみざと}で見つかった「国万呂」の刻印がある平瓦は、恭仁宮や平城京でも出土しており、奈良時代中頃の瓦が、長岡京の時代になっても再利用されていたことがわかりました。

中福知遺跡^{なかふくち}では大規模な護岸工事を行った痕跡が見つかりました。確認された杭は約 800 本にも達します。



「国万呂」の刻印がある平瓦（長岡京市上里遺跡）



自然流路の護岸施設（向日市中福知遺跡）

丹波道の 大江の山の さね葛 絶えむの心 我が思はなくに
（詠み人知らず） 万葉集卷十二 三〇七一
説明：山背国と丹波の国境である大枝の山を越えて行く時に、
残して行く人への想いを歌ったもの。

亀岡盆地の役所と寺院

◆地方の役所～国府・郡衙

老ノ坂^{おいのさか}を越えて丹波国^{たんぱこく}にはいり、桂川の東岸に沿って北上すると、丹波国分寺跡^{たんぱこくぶんじ}・国分尼寺跡^{こくぶんにじ}があり、その北西3kmには池尻遺跡^{いけじり}があります。

池尻遺跡では大規模な建物跡が見つかり、奈良時代前半の丹波国府の可能性もあります。



奈良時代後半から平安時代にかけての丹波国府跡と推定されている千代川遺跡（亀岡市）

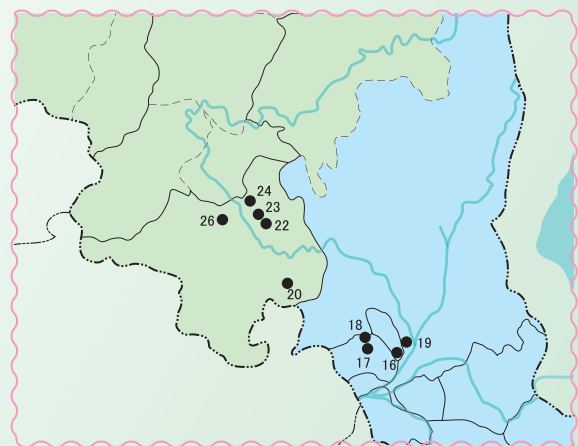


奈良時代前半の丹波国府跡か（亀岡市池尻遺跡）

◆丹波国分寺の造営

丹波国分寺創建当時の金堂^{こんどう}の基壇^{きだん}は、自然石をならべ、その上に平瓦を積み重ねたものでした。創建時の金堂基壇はその後、石積みの基壇に造り替えられました。

三日市遺跡^{みつかいち}では、丹波国分寺創建当時の瓦が大量に出土しており、調査地周辺で瓦の生産が行われていたと考えられます。



8～9頁で旅した遺跡



丹波国分寺の基壇跡（亀岡市教育委員会提供）



三日市遺跡で出土した
軒丸瓦と軒平瓦

由良川沿いの役所と寺院

◆何鹿郡の役所と寺院

亀岡盆地から北上すると、日本海に注ぐ由良川^{ゆらがわ}に達します。由良川中流域^{いかるが}の何鹿郡（現在の綾部市）では、飛鳥時代から奈良時代にかけて大規模な建物跡や寺院跡が営まれます。



青野・綾中遺跡群の建物群と綾中廃寺（復原想像図）
（早川和子作画、綾部市教育委員会提供）



綾中廃寺の瓦積み基壇跡（綾部市教育委員会提供）

綾中廃寺^{あやなかはいじ}では、非常に珍しい形をした瓦積み基壇が見つかりました。詳しい時期は不明ですが、飛鳥時代から奈良時代にかけてのものと考えられます。

また、青野南遺跡では、飛鳥時代から奈良時代にかけての、大規模な掘立柱建物跡が見つかり、何鹿郡^{いかるが}の役所の跡（これを郡衙^{ぐんが}といいます）ではないかと考えられています。



役所跡と推定される掘立柱建物跡（綾部市青野南遺跡）
（綾部市教育委員会提供）

◆平城京で見つかった木簡

平城京内にある長屋王^{ながやおう}の邸宅跡からは数万点にもおよぶ木簡が見つかりました。この木簡の中に現在も綾部市内に名を残す地名と税を納めた人物の名前が書かれたものがありました。

…ミニ・コラム…

平城宮・平城京の調査では多数の木簡が出土します。それらには税を納める時の付け札としたものや、勤務評定を記したもの、あるいは和歌を書いたものなど、さまざまな用途のものが見られます。

これらの木簡の多くは、その役目を終え、溝や井戸、ゴミ穴などに捨てられてしまいます。それを千数百年後の我々が発見し、研究をすることで、当時の人々の生活や政治のようすを知ることができます。

丹波国何鹿高津里

□□交易^{にえ}贈^{にえ}一斗五升
持丁高津公石寸

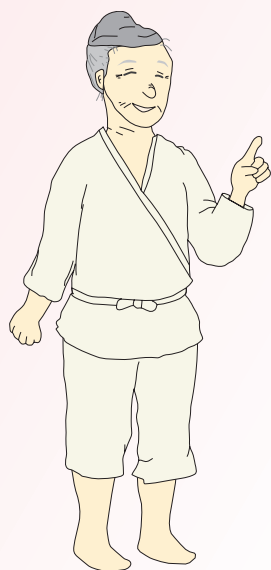
（長屋王邸出土木簡）

解説：何鹿郡高津里は現在の綾部市高津町に当たります。そこに住む高津公石寸は腊（鮎の干物か）を税として納めたことがわかります。

由良川の河口にむかって

◆由良川の役所

何鹿郡から由良川を下っていくと、丹後国加佐郡（現在の舞鶴市）に至ります。由良川沿いの桑飼上遺跡や志高遺跡では、掘立柱建物跡や土器がたくさん見つかっており、河川交通を利用した役所や倉庫の建ち並ぶようすが想像できます。



由良川は、京都府北部の物資輸送の大動脈だったんだ



桑飼上遺跡の掘立柱建物

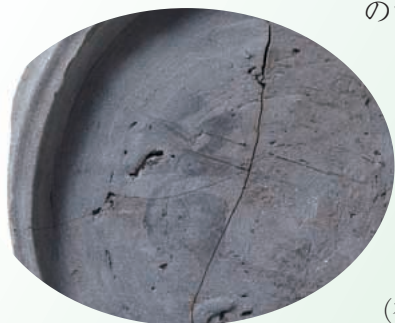


倉庫群と納税のようす（想像復原図）
（早川和子作画、綾部市教育委員会提供）

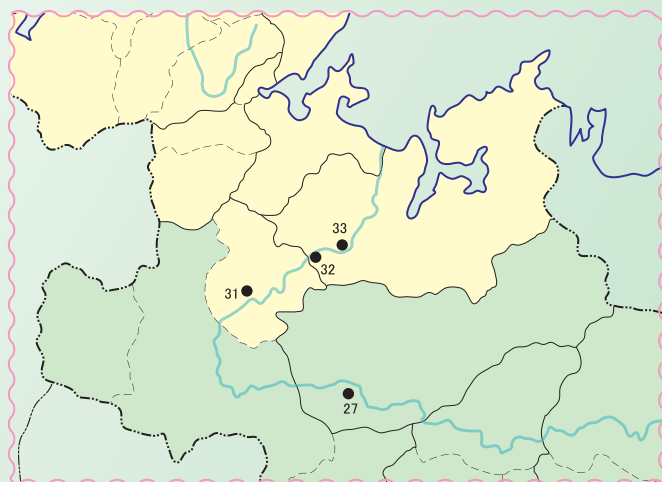


志高遺跡の掘立柱建物と由良川

河守北遺跡から由良川に沿って下流に行くと、現在の舞鶴市内に、中世に「岡田庄」という地名がありました。何らかの係わりがあるのかも知れません。



「丘田」と墨書された土器
（福知山市大江町河守北遺跡）



10～11頁で旅した遺跡

ものづくりの世

◆舞鶴湾の製塩遺跡

舞鶴湾に面した浦入遺跡^{うらにゅう}では、小さな入江の海岸全体を使って、奈良時代から平安時代にかけて塩づくりが行われました。

当時、塩は税として国や地方の役所に納められました。しかし、浦入遺跡でつくられた塩は、税だったのか、それぞれのムラで消費されたのか、わかっていません。



浦入遺跡の全景（舞鶴市）



塩づくりの作業場の跡（舞鶴市浦入遺跡）



浦入遺跡から出土した製塩土器



「与社」と墨書された土器（舞鶴市浦入遺跡）



「笠百私印」の製塩土器
（舞鶴市浦入遺跡）
（舞鶴市教育委員会提供）

◆須恵器をつくる

古墳時代に始まった須恵器^{すえき}の生産は、各地に広がりました。奈良時代になると、役所や寺院だけでなく、集落で多数使われるようになりました。

京丹後市阿婆田窯跡^{あばた}などでも多数の須恵器が焼かれ、広く供給されました



須恵器を焼いた窯跡（京丹後市大宮町阿婆田窯跡群）

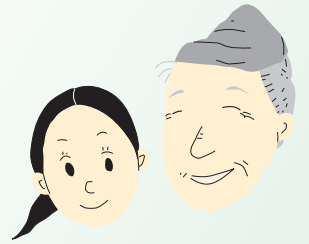
界 ～丹後国各地をめぐる～

◆丹後の製鉄遺跡

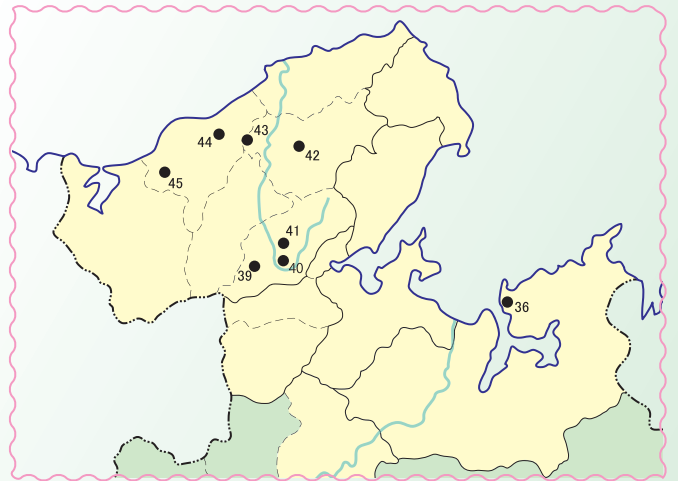
丹後半島では奈良時代を中心に、大規模な製鉄が行われていました。^{えんじょ}遠處遺跡や黒部遺跡では、製鉄炉や、製鉄に必要な炭を生産するための炭窯、生産した鉄を製品にするための鍛冶炉などが見つかっています。

できあがった製品は、竹野川などの水運を利用して各地へ運ばれたと考えられています。

丹後国では、
塩や鉄、土器など
がつくられていたんだ



黒部遺跡の製鉄炉跡（京丹後市弥栄町）



12～14頁で旅した遺跡



遠處遺跡の鍛冶工房群（京丹後市弥栄町）



鍛冶作業のようす（想像復原図、早川和子作画）

余部郷□真成田祖祖初五斗

（遠處遺跡出土木簡）

解説：余部郷の属する郡は不明ですが、遠處遺跡のある竹野郡の可能性があります。郡に設けられた正倉（倉庫）から田租（いわゆる租庸調の税のうちの租）を持ち出したことを示す木簡と考えられます。

丹後国竹野郡芋野郷姦部古與曾赤春米五斗

（平城宮跡出土木簡）

解説：竹野郡芋野郷は現在の京丹後市弥栄町芋野に当たります。姦部古與曾が赤米五斗を税として納めた際の荷札木簡と考えられます。

丹後の役所・寺院・墓地

◆丹後の役所と寺院

丹後半島でも役所の跡や寺院跡が見つかっています。正垣遺跡^{しょうがき}では多数の建物跡や墨書土器、石帯などが出土しました。

俵野廃寺^{たわらのはいじ}は丹後半島で最も古い寺院の1つで、寺院廃絶時に捨てられたたくさんの瓦が出土しました。



役所の跡か（京丹後市大宮町正垣遺跡）

身につけている人が役人であることを示す石帯^{せきたい}や銅製帯金具^{おびかなぐ}が役所と考えられる場所で出土しています。



役人であることを示す石帯・銅製帯金具
（京丹後市網野町横枕遺跡・同大宮町正垣遺跡・
亀岡市太田遺跡・城陽市芝山遺跡）



大量に廃棄された瓦（京丹後市弥栄町俵野廃寺）



俵野廃寺の軒丸瓦



奈良時代に使用されていた横穴墓
（京丹後市大宮町左坂横穴墓 B 支群）

◆奈良時代のお墓 ～横穴墓～

奈良時代のお墓のようすは不明な点が多いのですが、京丹後市大宮町では奈良時代のお墓として、横穴墓^{おうけつぼ}が調査されています。

これらの横穴墓群は、古墳時代から引き続き営まれたもので、奈良時代前半まで使用されていました。



横穴墓から出土した須恵器
（京丹後市大宮町左坂 B 8 号横穴）

長岡京へ

◆長岡京への遷都^{せんと}

延暦^{えんりやく}3（784）年、桓武^{かんむ}天皇は都を平城京から長岡京に遷^{うつ}しました。しかし、わずか10年の短命な都となり、延暦13年（794）年には都を平安京に遷しました。

長岡京では天皇の居住する宮周辺や貴族邸宅跡をはじめ、京内の広い範囲で生活が営まれていたことがわかっています。長岡京左京二条三・四坊で貴族の邸宅跡が見つかりました



長岡京左京二条三坊で見つかった貴族邸宅跡
（京都市南区長岡京跡）

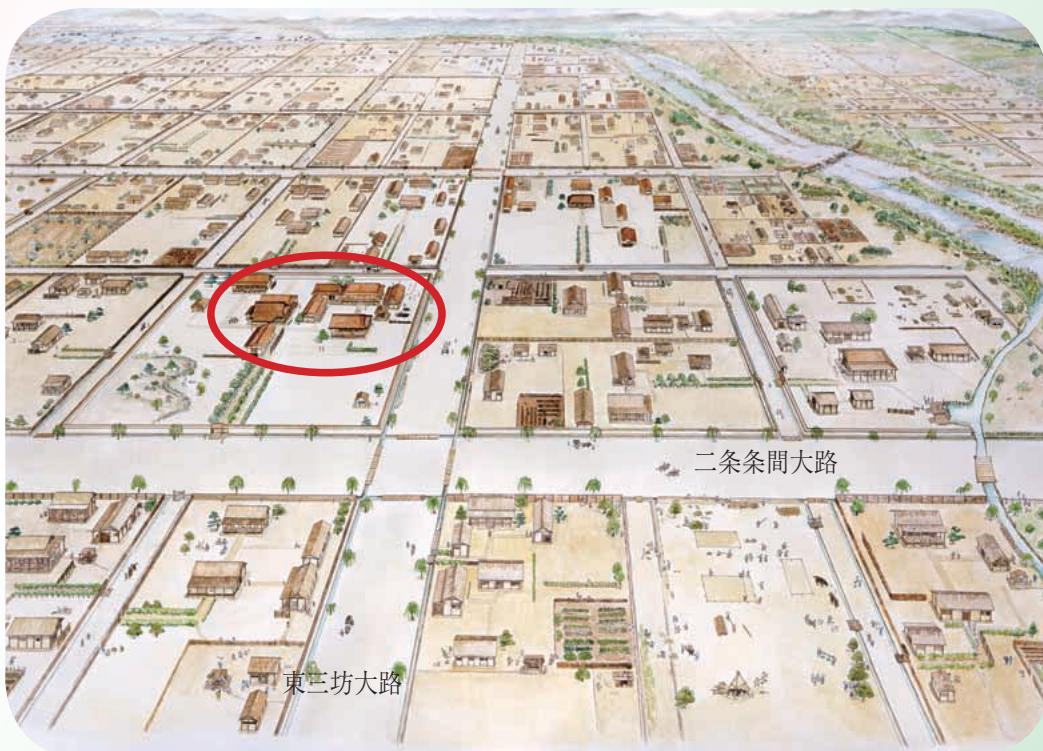
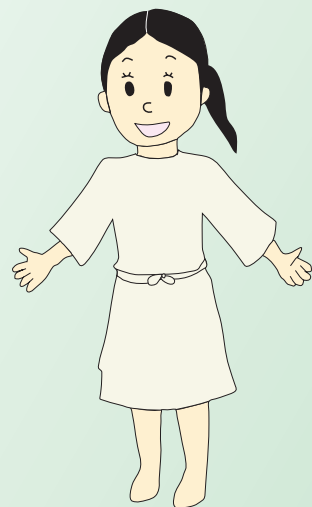


高級なうつわ 緑釉陶器（亀岡市篠窯跡群黒岩1号窯）

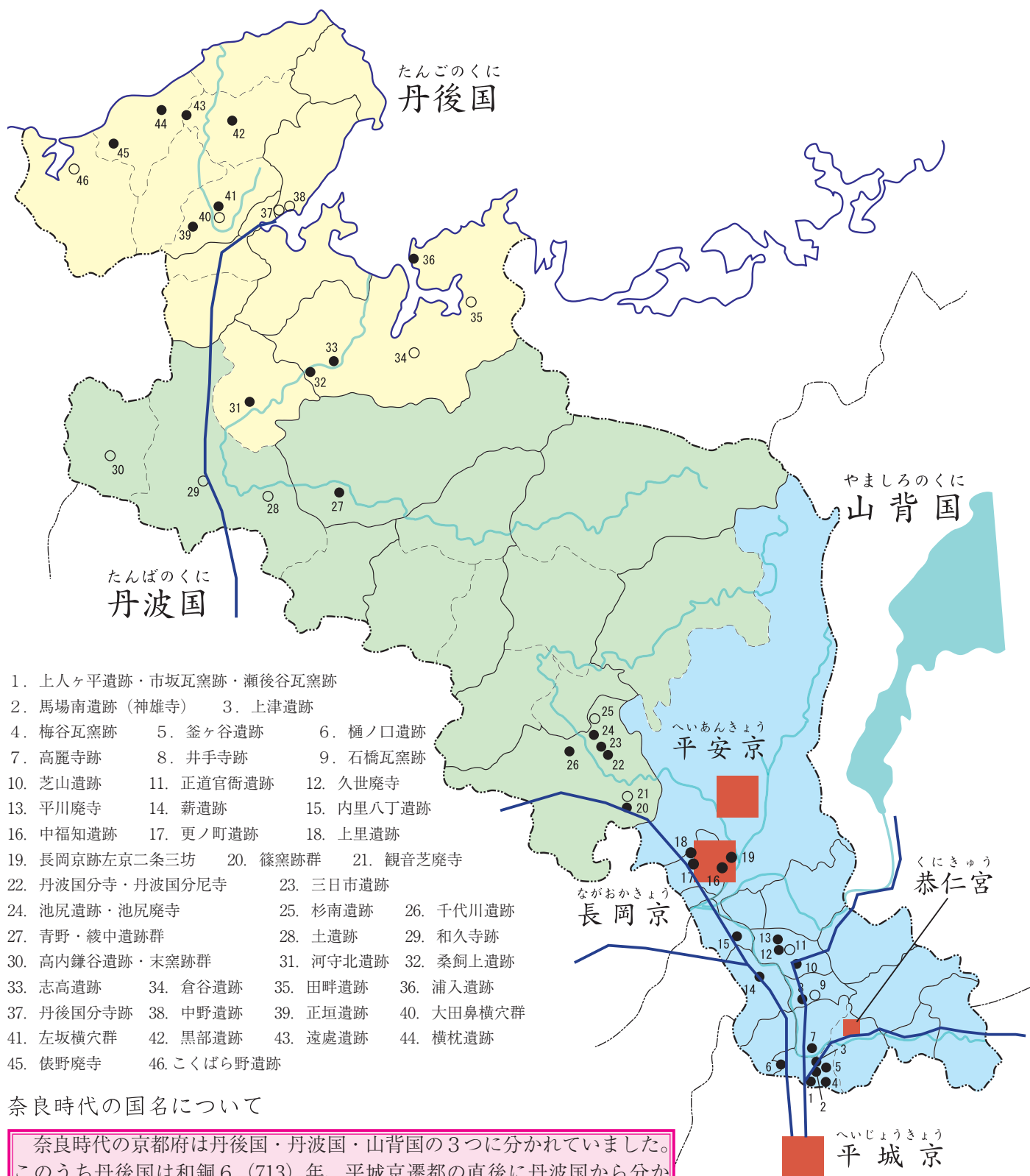
平安時代になると、須恵器や土師器よりも高級な器としての緑釉陶器^{りょくゆうとうき}が生産されるようになりました。

この緑釉陶器を生産した窯跡として、亀岡市篠^{しの}窯跡群などがあります。

長岡京では、発掘調査によって天皇から庶民までの生活のようすがわかってきました



長岡京左京二条三・四坊周辺想像復原図（赤丸囲みが上の写真の建物群、村上優美子作画）



奈良時代の国名について

奈良時代の京都府は丹後国・丹波国・山背国の3つに分かれていました。このうち丹後国は和銅6（713）年、平城京遷都の直後に丹波国から分かれて成立しました。また、山背国は現在「山城国」と表記しますが、これは平安京遷都後の延暦13（794）年に改められたもので、奈良時代には「山背国」と表記されていました。

本図録では、奈良時代の遺跡・遺物を取り扱うため、当時の表記にしています。

（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター設立30周年記念展覧会「天平浪漫紀行・京都」展示図録

発行日 2010年8月14日

編集・発行 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40-3

TEL.075-933-3877 Fax.075-922-1189

ホームページアドレス <http://www.kyotofu-maibun.or.jp> 印刷 三星商事印刷（株）

（この図録には再生紙を使用しています）